

## 平成 29 年度 SPring-8 ユーザー協同体特別総会 議事録

日時：平成 30 年 1 月 9 日（火）12 時 10 分-13 時 10 分

場所：つくば国際会議場 3 階 中ホール

（〒305-0032 茨木県つくば市竹園 2 丁目 20 番 3 号）

出席者：75 名

議事概要：

### 1. SPRUC 会長挨拶

中川会長より年頭の挨拶と、SPRUC の活動状況の概要と会員への協力要請があった。SPRUC は理研、JASRI と連携しながら、分野融合型研究グループや研究会を中心に活動していること、今年度より新たに秋の学校を開催したこと、また、SPring-8 シンポジウムでも示されたように、高輝度放射光計画、SPring-8 アップグレードに向けて益々 SPRUC の役割増大を感じるとの話があった。ビームライン高性能化検討作業部会での各研究会への意見収集結果、および、SPring-8 シンポジウム 2017 で行われたパネルディスカッションの内容については、近日中にホームページで公開することが報告された。また、SPRUC—理研—JASRI で行っている 3 者会合にて、施設と共に議論しているとのこと。今後とも SPRUC を通じて良い研究活動ができるよう意見をいただきたいとの協力要請があった。

### 2. JASRI 理事長挨拶

土肥理事長より、新年の挨拶の後、JASRI は Think globally, act locally のスローガンのもと、高度化、高性能化、ユーザー支援を行っていくと共に、研究技術の向上に注力する方針が示された。また、恒例となった一句披露（ダイヤモンドダストが詠まれた）があった。

### 3. JASRI 理事による施設報告

山川理事より、施設報告として、SPring-8 および SACLA の利用状況と JASRI の運用状況の報告があった。JASRI の業務としては利用促進業務と運営支援業務があり、それぞれ、産業利用、測定代行、課題選定、および年間 4000 時間安定な運転が実施されている旨報告があった。また、SPring-8 の共用枠には年間 1900 件、SACLA には年間 150 件の申請があり、それぞれ採択率は 70%、50%であるとのこと。さらに、国内の法人のみを対象として SACLA の成果専有課題が始まったことに言及された。また、SPring-8 の利用者数、利用課題数、発表論文数についても情報の取りまとめを行っており、発表論文数は年間 1000 件に届いているものの海外と比べればまだ少ないことなどが示された。また、SPring-8 利用者の受賞の広報も行っているとのこと。SPring-8 利用収入の推移について、少し減少気味であること、年間有償利用料収入については専用 BL 分が少なく、実態との関係を危惧している旨触れられた。また、非専有課題の成果公開について、公開期限延期制度では最大延

長期限は 7 年であること、および利用研究成果集活用についての説明があった。2018B 期の利用課題募集について、特に新分野創成利用課題と産業利用課題について予告があった。

#### 4. SPRUC 活動報告

- ・次期会長選出および評議員選挙の報告（杉本幹事）

評議員会にて、次期 SPRUC 会長に水木純一郎関西学院大学理工学部教授が選出されたことが報告された。また、第 7 回評議員選挙にて、学術機関、産業機関より 15 名（任期：2018 年 4 月より 2 年間）の評議員が選出されたことの報告があった。

- ・SPring-8 シンポジウム 2017 報告（杉本幹事）

SPring-8 シンポジウム 2017 が実行委員長を乾広島大学教授として広島大学にて開催され、参加数 267 名、うち懇親会参加者 126 名であったことの報告があった。パネルディスカッション報告を含む詳細は SPring-8/SACLA 利用者情報誌に記載されているとのこと。今回のパネルディスカッションでは、現状の問題点をリストアップすることが目的であったが、反省点として、順序構成の整理の必要性、自由討論の時間が少なかったことに触れられた。シンポジウム終了後に、3 者会合にてシンポジウムの総括を行い、今後実施すべきテーマをまとめ、その結果は中川会長らにより文科省に報告されたとのこと。なお、次回 SPring-8 シンポジウムは 2018 年 8 月 25 日-26 日に姫路市民会館にて開催予定であることが報告された。

- ・会計幹事報告（加藤幹事）

SPring-8 シンポジウム 2017 の予算と実績報告および、平成 29 年度の予算執行状況の報告があった。これまでの繰越金を取り崩すことなく予算執行予定である旨示された。

- ・利用幹事報告（若林幹事）

平成 29 年度の研究会活動状況報告があった。また、研究会活動補助についての内規の改定について、旅費支給基準の変更内容（※注）が明記されたことが報告された。第 4 期の研究会設置募集の締め切りが 3 月 19 日(月)であり、その際、各研究会の活動実績から判断して一部の研究会には勧告あるいは助言を SPRUC から行う旨説明があった。

- ・分野融合型研究グループの報告（杉本幹事）

分野融合型研究グループ活動 4 件のうち、ナノデバイス科学、実用の 2 つを進めており、それ以外の 2 件は現在白紙状態であるとの現状報告があった。ナノデバイス科学は、小野 PO のもと新分野創成課題として実施中で、ユーザーと蓄積されたノウハウ等の情報を共有する段階に入っており、今後、31 番目の研究会として登録を進めていく見込みであることが示された。また、実用も高尾 PO のもと実施されていると報告された。

・企画委員会報告

西堀企画委員長より、「第1回秋の学校」開催報告があった。開催日程は9/18-21で、3年生から企業の方まで含めた43名の参加者を得て盛況に行うことができた旨報告があった。今後ともSPRUCの行事として進めるべく協力要請があった。

藤原委員長より、SPRUC ビームライン高性能化検討作業部会の報告があった。研究会に対してアンケートを2回実施し、その概要はSPring-8 シンポジウム2017のパネルディスカッション時に報告されたこと、また、中間報告書を会長に提出し、アンケート回答内容は各研究会の許可を得てホームページ上で公開される予定との報告があった。

・今後の予定について（杉本幹事）

今後のスケジュールとして、1月に3者会合、2月に組織委員会の立ち上げ、3月に動向調査報告書とりまとめ、第4期研究会申請、4月に平成30年度第1回評議委員会、5月にYSA募集締め切り、8月にSPring-8 シンポジウム2018が予定されていることが示された。

・次期SPRUC 会長挨拶

水木次期SPRUC 会長より挨拶があった。SPring-8は最先端の成果を出し続ける施設であることが求められており、それに対して、SPRUCとして何が出来るかを考えていきたい、また、次期計画について登録機関や施設者に提言をしていきたいとのことであった。身を粉にして頑張るとの力強い所信表明があった。

以上。

付記

※注

改定内容は以下の通り

1. 研究会参加者への旅費支給は、原則として、以下の全てを満たすものとする。
  - 1)SPRUCの会員でないか、あるいは、当該研究会に所属してから1年未満であること。
  - 2)これまでに当該研究会に参加したことがないこと。
  - 3)申請された研究会において講演を行うこと。
- 4.旅費支給を受けた研究会は、旅費支給対象者の講演による研究遂行上の効果等の報告を利用委員会に行うものとする。